

第6回富士見市文化芸術振興委員会 議事録

日 時 平成29年3月23日(木)18:30~20:00

場 所 鶴瀬公民館第3集会室

出席者

加藤	氣賀澤	大橋	小倉	吉川	野村	佐藤
○	○	○	○	○	○	○
秋元	肥田	関	星野	長坂	東海林	高橋
×	×	×	×	×	○	×

○事務局

【地域文化振興課】中嶋課長、田中主事補

1. 開 会
2. あいさつ 加藤委員長
3. 議 事

(1)平成27年度文化芸術事業報告書について

事務局より前回会議実施時に提示された確認事項に関して以下の通り説明した。

事業番号13 地球にやさしい生活環境づくり事業

確認事項：「予算額と決算額の整合性が立っていない。」

報 告：本起票は上記事業のうち、環境問題啓発ポスターの掲示業務のみの予算を掲示していたが、報告書では事業全体での決算額を記載していたため、不整合が生じた。報告書での事業決算額に修正した。

事業番号14 ふじみ野交流センター生涯学習事業

確認事項：「事業予算が未定となっている。」

報 告：事業予算に実行委員会予算による運営が含まれるため、来年度以降は予算欄に先述の旨を記載するように依頼する。

確認事項：「ティータイムコンサートではお茶代を取っていたが、参加費が無料となっている。」

報告：あくまで実費の徴収という形でお支払いいただいているため、参加費としては無料という表記としている。

また、事業番号18から41に関して、先だって委員にご提出いただいた平成27年度文化芸術事業報告書コメントシートの内容を読み上げた。

報告書冊子作成の際にはコメントシートの内容を抜粋して記載し、担当課にはすべての意見を提示する旨を報告した。

委員) 本委員会は実施事業を評価するだけの委員会なのか。本委員会と地域文化振興課の仕事について今一度確認したい

事務局) 文化芸術振興委員会の役割は条例に記載されている通り、文化芸術に関する施策の振興のために設置されている。その中には文化芸術振興基本計画に基づいた様々な事業の進行管理も含まれる認識でいるが、評価だけしているという意味ではないと考えている。地域文化振興課としても、条例、計画に基づいた市の文化芸術活動の推進、また、文化芸術の振興によるまちづくりを業務として認識している。

委員) 歴史のある事業もある中で、委員の評価が何の役に立つのか疑問である。

事務局) 評価、意見の中から新しい事業を作っていくことも行政の役割と認識している。意見をただ戴くのではなく、その意見をどのように新しい事業につなげていくか検討する庁内委員会での課題として、地域文化振興課単独ではなく、この評価を通じて全庁的に市民からの意見を聞く機会を作りたい。

委員) 委員が直接参加していない事業もあり、本当に役に立つ意見となっているかが疑問である。

事務局) 評価の進め方に関しては検討する必要があると認識している。我々としてはこの評価、意見を担当課と共有し、ただ計画を出すのではなく、どのような評価が役に立つのかなど、事業発展のための検討材料としたい。

委員) 委員各々で行いたい事業プランは持っていると思うが、それをいつ実施できるのか。

事務局) 市民団体との協働による文化芸術事業の実施ということは計画にも記載されており、市民文化祭実行委員会などが該当していると考えている。市民の方が自ら行いたい催しを市民に届けるという取り組みに関して、今後本委員会でも検討していきたい。

委員) 公民館祭りなど、各公共施設において実行委員会を中心とした様々な催しが行われている。各々のイベントは地域の特色もある。それが富士見市の良いところではあるが、課題は交流だと考える。地域間での文化交流を行うにはどうすればよいのか、市内の農業と文化芸術を織り交ぜて盛り立て

ていくにはどうすればよいのかなどを議論しながら考えていくことが本委員会の本来の役割ではないのか。

委員) 様々な専門分野、考え方を持つ委員が意見を交わすことによって何か新しいものが生まれるように思うし、本委員会ではその可能性があると感じている。可能性がある限りはあきらめずに継続することが大切である。

事務局) 計画の見直しも踏まえ、後期の5年間で何を行うのか、振興委員会はどのような役割を担う委員会なのかを計画の中に盛り込む必要もあるように考えている。

委員) 評価も大事だが、あまりこだわりすぎずにいろいろなことを考えられるようにした方が良い。

事務局) 評価を行う機関が無いというのも現状である。市民アンケートでは個人の嗜好により意見に偏りが出る。多面的な視点からの評価を戴けることはありがたい。

委員) 我々が評価を行う必要は本当にあるのか。市民ボランティアからの評価を精査するなど、他に有効なやり方があるのではないか。

委員) 計画作成時の委員会では今後10年の富士見市のあり方を考え、富士見市をこれからよくしていくために文化芸術を通じて何を行えばよいのか、前向きな意見を多く出せた。それから5年がたち、現在は反省の時期に来ているのだと感じる。

委員) 今評価を行っているのは平成27年度の事業であるが、平成29年度の予算が決まっている現在、この評価は意味があるのか。もっと先を見据えて大きな方向性を示していけるような話し合いがしたい。また、地域文化振興課だけではなくここで話し合ったことを担当課に反映してもらい、我々の意見がただの話にならないようにしてほしい。

事務局) 平成27年度の評価に関しては今後の仕組みづくりを試行錯誤しながら行っている。遅くなっているというご指摘はその通りであり、反省事項とする。また、評価に関しては庁内委員会および担当課へ直接共有し、予算の範囲内でも評価を反映した事業を各担当課が積極的に行い、市全体で盛り立てていくべきと認識している。

委員) 市長が変わったが、計画の進行についての市長の考えを知りたい。

事務局) 前市長の方針を踏襲しつつ、市民と市の協働でさまざまな新しい取り組みを行っている。良い取り組みは引き続き継続し、改善できるところは改善していくものと認識している。

委員) 一例ではあるが市内の吹奏楽部で使用している楽器の交換に市が予算を出している。一過性の催しではなく継続的に予算を捻出して、文化芸術の振興を図ってほしい。

事務局より平成27年度文化芸術事業報告書コメント記入案の提示を行い、レイアウトに関する説明を行った。

委員) 一般市民が実施事業をわかりやすく理解できるような工夫をすべき。

委員) コメントの抜粋は会議で行うのか。

事務局) 事務局にて抜粋、編集作業を行う。

委員) コメント欄のスペースが小さすぎる。ここが一番読んでほしいところ。

事務局) コメントを見やすくできるように工夫する。

4 閉 会 氣賀澤副委員長

以上